

大東市立歴史民俗資料館 市民学芸員REPORT

第4号

大東市立歴史民俗資料館
市民学芸員REPORT
2012年
6月16日発行
第4号
大東市立歴史民俗資料館
大東市野崎3-6-1
TEL 072-876-7011

好きが好きな人が好き 介護にフリマ 読み聞かせ 体操クラブ 子育て支援

今号の「私は市民学芸員」は、市内のいろいろな場所での姿を見かける人。お聞きしてみると、このまちと、人とのふれあい大好きがそうさせている、黒川喜和子さんです。

黒川喜和子さん
三箇6丁目在住

— 先日、野崎観音（慈眼寺）のホームペー
ジで黒川さんの姿を
拝見しました。

多分、野崎観音の中興の祖といわれる「江口の君」の縁日（君の市）でのことでしょう。毎月14日に開かれています。手作りのや骨董品などが販売され、私はそこで、手作りのおみやげやあられを出品しています。

— お客さんの層はどう
いった方ですか？

「君の市」のときは、女性が多いですね。お話をしてみると、ほとんどが市外の方ようですが、時々、地元の小生が見学で来てくれることがありますよ。そ

わたしは市民学芸員

んなときは地元の民話などの紙芝居をすることもあります。子育て支援センター

の活動でも紙芝居はします。が、子どもたちの反応がわかりやすいし、楽しいですよ。

— 紙芝居はなかなか難しいですね。どこでマスターされたのですか？

大東市の中央図書館は遠かった。「三箇文庫」と称して、自宅の一部を子どもたちに開放していました。



常に自然体でありながら パワフルに各方面でご活躍の黒川さん。

そのときから読み聞かせなどはしていました。子どもを対象に介護福祉士の仕事をしていたので、どう語りかけたらいのかは自然に身についたのではないのでしょうか。私の場合心掛けているのは一定の距離感です。もともと子どもと向かい合っていた職場でしたから、あまりべったりしてしまったり仕事の延長のような感覚になっちゃって、ついつい子どもに厳しくなりますし、自分自身にもゆとりがもたなくなっちゃいますから。

— そうですね。わかる気がします。

だからボランティア活動の初めの一步として、同じ福祉系でも高齢者向けの活動から入りました。福祉センターでの健康体操クラブです。始めて二〇年くらいになります。おかげで、ぜんそくや腰痛から解放されました。ずいぶん身体が楽になりましたよ。

次頁の下段につづく

活動三年目に入る 市民学芸員



市民学芸員とは、呼びかけに応募した市民がそのために必要な講座を受け、市民の立場から、大東市をよく知っていただくとうと活動する、大東市立歴史民俗資料館の専門スタッフです。

一昨年五月から本格的に始動して三年目を迎えています。その間、特別展「神社探訪・絵馬案内」、企画展「大東の風景」などに関わってきました。

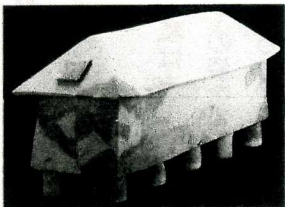
今回の特別展「堂山古墳群のひみつ」では、その資料館のリニューアル準備期間中から堂山古墳群についての研修を受け、四月から来館の皆さん方に、館内の「常設展」「特別展」および「堂山古墳群史跡広場」のご案内をさせて頂いております。

6月30日(土)まで

平成24年度特別展

堂山古墳群のひみつ

「堂山古墳群」は大東市寺川四丁目の小高い丘陵上にある、五世紀前半から七世紀中ごろにかけて築かれた八基の古墳群です。昭和四十四年から一号墳の発掘調査が始められ、昭和四十七年から丘陵全体について調査がされ、七基の古墳の姿が明らかになったのです。

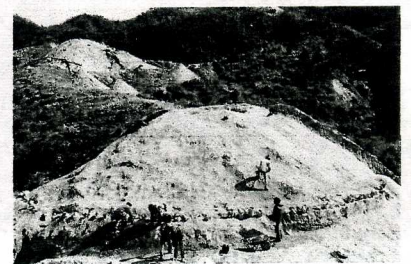


3号墳から出土した陶棺

調査から四〇年ぶりの公開。特に一号墳から出土した展示室いっばいの遺物。甲冑・剣・円筒埴輪・初期の須恵器など、一六〇〇年前から地中に埋蔵されていたものが三階特別展示会場にずらり。展示期間は、六月三〇日までですので、未だご覧になっていない方はぜひ会場へ！



1号墳から出土した甲冑



発掘当時の堂山古墳群。

「特別展」の写真3枚は「堂山古墳群のひみつ」図録からのものです

前頁から続く

「ほかにはどんなことをしておいでですか。忙しいですよね。まさか？」



「ふれあい大好き」黒川さん

ボランティア活動は、できるだけ週一回だけくらいにし、自分に合うことを見極めるようにしています。「しんどい」と感じたり負担になるような活動はしない、そういう自分なりのルールを決めています。

——市民学芸員の活動も三年目です。もともと歴史が好きでしたから。大東市に引っ越してきた頃は、子どももまだ小さかつ

たので自転車に乗せてあちこち散策していただきました。まちなみも好きなんですよ。もちろんそこに息づく人たちも好きですし。

——最後に市民学芸員としての活動についてひとこと。

この活動を始めて、新しい発見があつて楽しいですよ。より深く歴史を知ることによりこのまちが好きになりました。それから、人と接する機会が増えて、人と関わることももっと好きになりました。

常に自然体でありながらパワフルに各方面でご活躍の黒川さん。このまちと、このまちに住む人々が好きだという、キラキラと輝く眼差しに元気をいただきました。

聞き手 大西京子

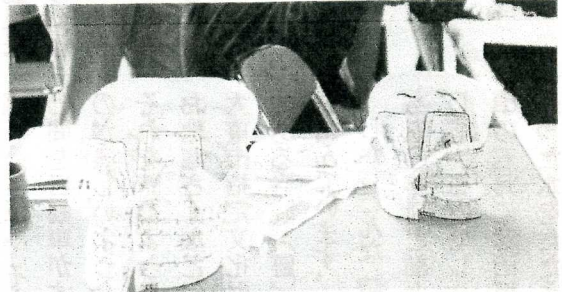
もっと知りたいハンズオン

5/12 甲冑を着てみよう

「昔の人は重いものを着ていたんだなあ。お父さん大丈夫？」



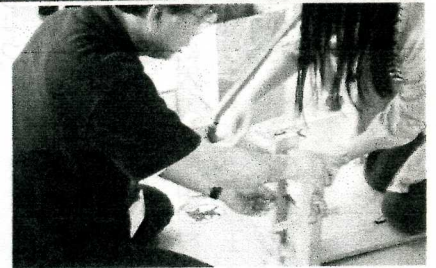
「常設展示リニューアル記念イベント」として、資料館にもっと親しんでいただこうと、子どもたちのために5回のハンズオンを催しました。



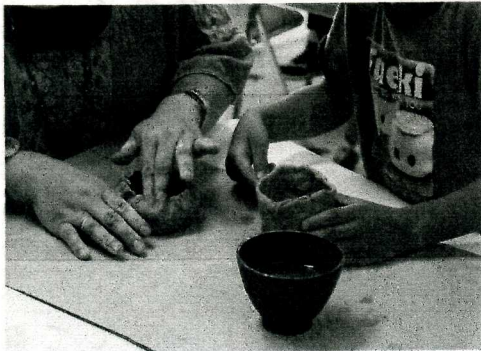
紙でミニチュア冑を作り、構造を学びます。

5/26 綿から糸をつくろう

「綿くり機」で「綿」の中にある種を取り除きます。

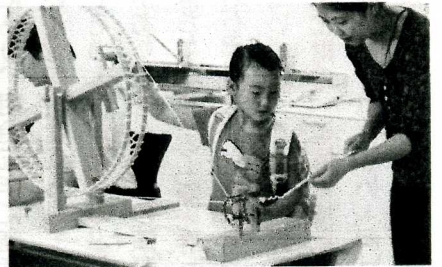


6/2 土器に模様をつけよう



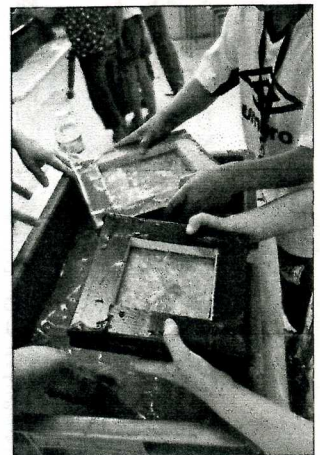
まず土器を作ってから模様をつけます

種を取った綿をほぐし「糸車」で糸を引きます。



6/9 古文書探偵になろう

こうぞ原料を使って紙をすきます



「綿から糸を作ろう」の会場風景



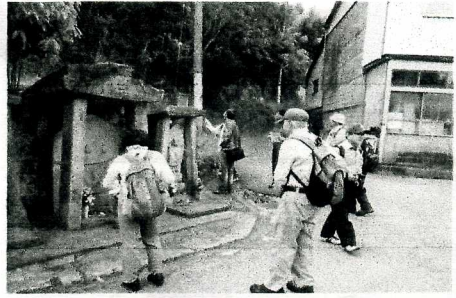
5回目のハンズオン「地域ものを探せ」は6月16日におこないました。

見てまわろう

ゆかりの地を歩く

市民学芸員の自主活動

龍間から飯盛山 龍尾寺 四条驛駅へ



市指定文化財 一石二段六地藏板碑の前での一同

新しい大東市立歴史民俗資料館に入ったところに、大東市文化財・史跡ウォーキングマップがあります。ちょっとした時

間、ある市民学芸員の一人が「おれ、この龍間に行ったことないねん」とつぶやき、誰かが「私も・・・いっぺん連れてって」と交わしたのが私たち市民学芸員、初の自主活動のきっかけでした。

ヘアピンカーブの阪奈道路をほぼ登り切ったあたり、自然に囲まれたゆつたりとした住宅の多くは、どれも年輪と、風格さえ感じさせます。そんな家々の間を自動車がすれ違うのが難しいような道と、それを繋ぐような農道がお地藏さんなどの三体の大東市指定文化財や、由緒ある寺院（跡）、神社を結んでいます。
しかしこんな「龍間村」も五〇年ほど前とは一変しているのでしょうか。今頃の五月には田植えの終わった水をたたえた水田や、四季それぞれに、甘

諸、里芋、馬鈴薯などのイモ類や、ゴボウ、ネギ、大根など野菜畑が村一帯に広がっていた筈です。それだけに昔は、全体が高原状の地形ゆえ、田に引き、畑を潤すなどの「水」には特に苦労されていたこともあり、龍の民話も伝承されてきたの



飯盛山山頂での一同。もう一人はカメラを構えています。

たというお話です。その日私たちは、三点の市指定文化財などの他に「さかれた龍」に登場する場所に相当する、二つのお寺（址）を巡ることが出来ました。胸が落ちてきたという「龍間寺」（跡）は市指定文化財の「一石二段六地藏」近く

でしょう。

大東市在住の東口恵子さんがまとめられた「さかれた龍」によると、千ばつに困った龍間の村人を救うために、大竜王に背いた龍がその怒りに触れてまで村に雨を降らせたため三つ裂きにされ、龍間村界限に落ちてき

譲されている共同墓地。しかし由緒と歴史の「龍間村」に実際に身を置いてこそ、同じ大東市としての「ふるさと」を体感できるものでした。ここまで来たら、あとはしっぽが落ちたと言われる「龍尾寺」です。「今のうちなら寺宝の龍のしっぽを見られるよ」との誰かの一言で決まりました。大東市立青少年野外活動センターを経て飯盛山で、山崎・天王山茨木の北摂山系から「明石大橋」、南の堺までを望んで三好長慶の気持ち

にあり、明治五年に廃寺、いまは塀で仕切られていてそのよすがをしのぶしかありません。龍の頭が落ちたとされる「龍光寺」も石碑に導かれて坂を上っていくと、これも市指定文化財の「延徳銘地藏」の奥にそれらしい「祠」があるだけで、周囲は分

ななかでもAさんは豊中の我が家辺りが見えると感激したのち、権現川沿いの「龍尾寺」に向かいました。
まじかにみる「龍」のシッポは思いのほか小さく、生々しく、DNA鑑定の方がフト頭をかすめました。俗っぽい考えは追い払って、住職さ

んのお話に耳を傾けた私でした。

龍間から「飯盛山系」を縦走し、四条驛駅まで、昼食時間合せてゆっくりで約五時間。歴史ハイキングとしても、中級のおすすめコースです。

近々またどこか歩いてみよう、そして大東市のいいところを探索し、紹介したいと思います。

大東市立

歴史民俗資料館

「市民学芸員

REPORT」

編集スタッフ

市民学芸員REPORTの第四号をお届けします。

バックナンバーが若干あります。ご希望の方はおっしゃってください。

今号の編集スタッフ

- 中西 昭治
- 松井 健一
- 水永八十生

事務局 大西 京子

みんなであちこち

だいとうとその周辺

大東市龍間へ
心合寺山古墳へ



八尾市にある「心合寺山古墳」の見学は皆で二年半前に行ったことはありましたが、同じ場所を巡っても、時がたればまた違った発見があるでしょう。「心合寺山へ行くのか」との呼びかけに急な計画に拘わらず一〇人も参加しました。みんな同じ思いだったのでしょう。

古墳時代中ごろ、約一六〇〇年前に築造された、その当時の河内の王が葬られたという前方後円墳の全貌が、「しおんじやま古墳学習館」と、よく整備されている全長一六〇mの古墳とその周辺を

八尾市 心合寺山古墳周辺ウォーク

歩くと、わかりやすく体感できるし、なによりも私などのようなものでも理解しやすいのがあります。それは、それにこの二年半の間に、市民学芸員として文化財に接し、いろいろなことを聞いてきているお蔭もあるのです。

「心合寺山古墳」はわが町の「堂山一号墳」とはさすが規模の点で違い、「心合寺山」が河内の「支店長」クラスなら、「堂山」はその北の部分を担当する「部長」クラスといえるでしょうか。

規模が違うのは、整備の仕方にもあります。わが「堂山古墳群」とその発掘品はすべて、四〇年の間大阪府が管理・所有していました。しかし今回、古墳の現地は、府から移管され、市の指定史跡となりました。これか

ら市民により親しまれるよう整備されることを期待し、来館されたかたに直接接してきた体験も生かし、希望も出していきたいものです。

次に私たちは、一部生駒山の十三峠に至る坂道をたどって、大阪経済法科大学構内に、本物そっくりのように建てられて

いる、好太王（広開土王）碑を見学しました。好太王碑というのは中国の北朝鮮との国境近くにある、高さ六・二mの碑で、四一四年（堂山の一号墳築造の頃か）に建てられ、その四周に約一八〇〇字の「漢字」が刻まれているもので、そこには四世紀末の「倭」の朝鮮への進出や、大和政権の成立に関する記述も刻まれ、四・五世紀の東



松井健一さん作成の当日の資料です（部分）
原図は55cm×90cmですが右半分をご紹介します
松井さんの話
「好太王碑と七支刀の資料を調べているとき、ふと小学生の時、朝顔の観察記録を壁新聞で発表したことを思い出し、童心に戻って手書きの壁新聞方式の説明書を遠足気分で作ってみました。かたい話も少しは楽しくなるのでは……」

アジアの歴史を解く重要な資料とされているもの



好太王碑レプリカの前で、松井さんの壁新聞を持ってカメラに収まる一同。シャッターは学生さんにお願ひしました。

です。その碑を見ながら、今回の見学を企画された一人の松井健一さん手作りの「壁新聞」を「好太王碑」の前で見せていただいたので、ここではそれを別に紹介させて頂き

ます。

その他、愛宕塚古墳、神立地藏堂、熊野神社、薬師石佛などを訪ねたことを付記しておきます。

日本にまだ文字の無い時代、物言わぬ「堂山一号墳」築造前後の状況証拠を訪ねて歩いた一日でした。

中西昭治 記

堂山古墳群史蹟広場
新・歴史民俗資料館

ガイド一年生の第1学期

市民学芸員の自己通信簿 今後の傾向と対策

私たちが市民学芸員は、歴史民俗資料館の二つの展示室と、堂山古墳群史蹟広場について三グループに別れての勉強会を数回行いました。両施設ともに新たに発足するもので、知識もまったくなく、本格的な案内の仕方にも初体験だったため、指導される館長・学芸員さんも大変だったでしょうが、なんとか三月二四日のオープン式典、内覧会、四月一日の開館にはそろうって皆様方をお迎えできました。

以下は、開館一か月後での私たちの感想です。

今まで「気を使ったこと」「苦勞」したこと

- ・ 展示場が二階と三階で階段の上り下りが大変だった。
- ・ 初めのうちは、何をしても良いのやら、どうまとめて良いのやら頭が痛かった。
- ・ 開館直前まで展示が完了していなくてイメージを作れなかったことが一番の苦勞。
- ・ 映像が流れているので、話しかけるタイミングがなかなか取れなかった。
- ・ 辞書にもない難解な漢字の読みには苦勞した。
- ・ 小学生（低学年）に対する館内説明に困った。
（かえって説明しやすい、との声も）
- ・ マニアックな人に苦勞する。
- ・ 下手な話を聞くためでない、という人もあり、鑑賞の邪魔をしないようにしている。話好きの人には困ることもある。
- ・ 来場された人が関心を示されるものを中心にご案内している。
- ・ 展示場の順路が元学校の教室のためか、わかり難かった。
- ・ 現地での予行練習が十分でなかったため、すこし不安があった

おおぜいの方の
ご来館
ありがとう
ございます



歴史民俗資料館の「常設展示室」「企画展示室」と「堂山古墳群史蹟広場」三つの案内の担当に別れて、勉強をしていきました

案内の際に、気を付け、心掛けていること

- ・ ゆっくり話す。質問されたら話しやすい。
- ・ 史蹟広場では、お帰りの時、「お足元にお気を付けて」「資料館にもどうぞ」と言う。
- ・ 気持ちよく挨拶。
笑顔。
- ・ 一号墳は応神天皇陵古墳と同時代のもの。この時代は渡来人が多く来て、新しい技術も多く伝わった、ということを出しにすると興味を持っていただける。
- ・ 押しつけにならないようさりげなく。子どもには子どもの目線。
- ・ 来館者の体験談や情報にも耳を傾ける
- ・ 想像力を少しでも補完できるように。
「いらっしゃいませ」「ご案内させて頂きましようか」
- ・ 反応をみながら解説している。
- ・ ものの説明だけではなく時代背景もお話する。
- ・ イメージ出来るような具体的な説明。
- ・ 何を求められているのかを、タイミングを考えて話している。
- ・ わかる範囲で説明。
- ・ わからないことは無理に解説しない。
- ・ 見学にこられた方に教えていただく事の方が多し。
- ・ 「さりげなく」がモットーです。
- ・ 昔の暮らし、昔の大東市はどうでしたか？と聞くと、皆さんいろいろ喜んで語って下さいます。
- ・ 邪魔をしないように「もしよろしかったら説明をします」と言っている。

案内中のエピソードなど

- ・多くの資料を読み、説明し、自分で勉強できた。
- ・愛知県から日帰りでおいでになった方がありました。
- ・オープニング当日の天気予報が気になり神だのみの「照る照る坊主」をつくった。
- ・河内湖からよく見えていた堂山のことを話すと、神戸の、瀬戸内海からよく見える「五色塚古墳」の話がされ、嬉しかった。
- ・直前になってお話をすることを忘れてしまっていて、慌てた。
- ・二階・三階の展示資料に共通していることをまず覚えた。
- ・チームで説明の資料作りを手分けしてやったことが年甲斐もなかつた。
- ・古墳広場のオープニング記念式典は、突然の大雨で、出席者の方々の体調が気になり一日だった。
- ・地元の年輩の方にいろいろと教えていただき、ありがたかった。
- ・「こんな大昔から大陸からおおぜい渡来人が来て、一緒に仲よく住んでいたのが大東市ですね」と感慨深く話されていた。



3月24日、「堂山古墳群史跡広場」テープカットの日に、案内・説明をしている市民学芸員（中央と右端の二人）

今のいろいろな思い

- ・文化財を守り、次の世代に伝えていきたい。
- ・郷土を大事に、人を大切に。
- ・お客様に対して、簡潔に分かり易いお話ができているのか？
- ・発掘調査前の古墳の、地元の人との関わりなどを知りたい。
- ・どこまで記憶力が残っているものかと。すっかり忘れてしまいたい。
- ・参加出来る事は大きな喜びで、苦労だと思っただけはありませぬ。
- ・親しみやすい資料館を印象づけたい。
- ・たくさんの方と出会うことが出来るのは楽しい。

私たちが一番アピールしたいこと

- ・常設展示室について
- ・大東市の歴史は、水とのたたかきであったが、その為木製品、土器の保存状態がよく、排水の為の道具が工夫され、人々が今日までくらししてきた。
- ・資料館前のドアにある河内名所図会と窓外の野崎観音を見比べることが出来る。
- ・常設展示のイメージ一新。目と耳で大東市のいままでがわかります。
- ・特別展「堂山古墳のみみつ」について
- ・今回の特別展の見所は、膨大な数の鉄製品。
- ・須恵質陶棺が三号墳から出土したこと。
- ・日本では百数十基しかないT字形石室が堂山古墳群にある。
- ・かつて昔の古墳時代に大和の政治を支えるかたちでこの地があり、水運、陸運を持ち、とても有効な場所であった事。
- ・こないっぱいの発掘品は大阪府所有のもので、見ることもできるのも六月三〇日限り。以後、返却されてしまいます。
- ・堂山古墳群史跡広場について
- ・史跡広場に立つと、古代の大東が見えてくる。
- ・堂山古墳群から眼下に広がる風景のすばらしさと古墳時代の河内湖が眼下に広がっていたこと。
- ・この古墳群の位置が持つ意味に気付いて頂きたい。



新しくなった
大東市立歴史民俗資料館へお越しください

大東市の旧四条小学校跡地（野崎三丁目）に、新しく「歴史とスポーツふれあいセンター」が誕生し、その建物の2・3階に「大東市立歴史民俗資料館」が4月1日リニューアルオープンしました。建物は学校の面影を残すものの、全面改装された室内の展示は一新され、新たな学びの場として生まれかわりました。市民学芸員一同お待ちしておりますので、ぜひお越しください。



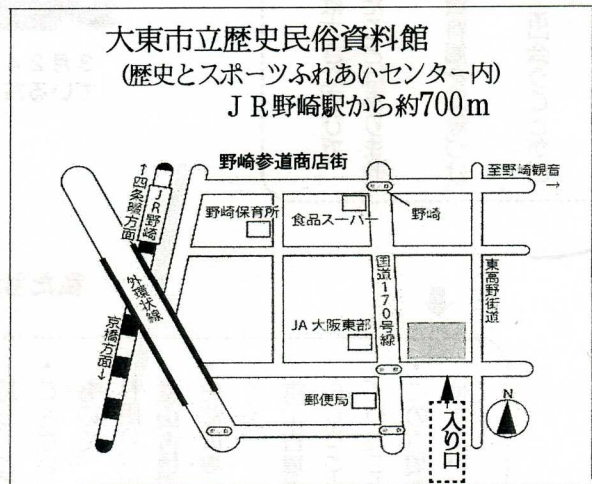
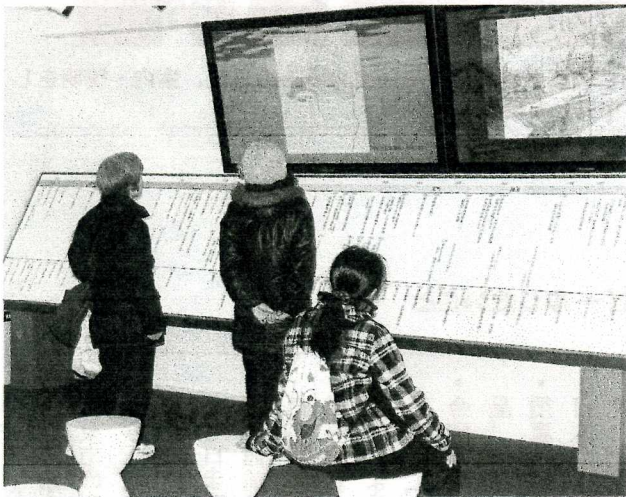
歴史民俗資料館の常設展示室は通年展示しています。
休館日 第一・三火曜日
(その日が祝日のときは翌日)
年末年始

入場無料

新しくなった大東市立歴史民俗資料館の玄関口です。資料館入口扉の絵は「河内名所図絵」を模写彩色したもので、絵の左上に野崎観音が描かれているのが見えます。この場所に立って左、窓の外を見やると、近くに実際の野崎観音が見渡せる（左上の写真）そんな場所にオープンした資料館です。

居ながらにしてわかる 大東市のなりたち

左は水との関わり、右は出来事などを映す2つのモニターで、旧石器時代から現代までの大東市の歴史を、9分間で概観できます。



編集後記

▼古墳時代行きタイムトレインに乗って古墳ツアーの出発だ。きつと堂山古墳群から見る河内湖に沈む夕日は素晴らしいだろうな。松井健一▼新しい何かを始めることに遅すぎることはない。そんな勇気を先輩方とお話するたびにいただいています。大西京子▼出来上がりつつある今号はやや仲間用の内向きのようです。リニューアルした展示内容と、四〇年ぶり公開の堂山古墳群の紹介が充分にきかれていないからでしょう。中西昭治▼堂山古墳群史跡広場へ地元の人をご案内して「大東市に自慢できるものがまだあったんですねえ」と言って貰えることが何よりもうれしい。まだの人は、ぜひ一度来てみてください。水永八十生